

因として、秋田、静岡、下関、門司、長崎に於ける若干の出超を除き、一般に還収超過を示した(各店)。

五、商況及び物価

一般購買力の低下に加え、農繁期梅雨期に際会したため、商況は一般に前月より一層不振で、従来比較的好調であつた百貨店の売上高すら前月に比し減少している(各店)。之がため引続き陶器、電球、マツチ等一部商品の投売が弗々行われているが(高松、鹿児島、松山)、投売は未だ全般化するに到つてない(各店)。實際物価は、生産財の下落が目立ち(大阪)、消費財も端境期で米が微騰した外絹製品、日用雜貨品、燃料は下落を示し、全体として下押気味である(各店)。

昭和二十四年七月——九月

一、七月中

(一) 概況

輸出不振と国内有効需要の減退に基く、デフレ懸念深化の折柄、本行の割引適格貿易手形の高率適用除外、高率適用最高利率の引下げ、公開市場政策の活潑化等積極的金融緩和施策は一般に好感を以て迎えられ、市中銀行の融資態度も緩和した。然しながら中小企業方面に対する融資は、業者の経営内容に鑑み充分の浸透は見られず、この方面の金詰りは依然深刻な様相を呈している。

行政整理に呼応して民間企業の人員整理も本格的実施段階に入り、失業者が増大しており、地方庁に於ても失業対策を真剣に取り上げているが、地方財政の現状より余り期待出来ず政府の早急援助を望んでいる。

統制撤廃見越しと夏枯期に入り滞貨は益々増大し業種も漸次拡大しており、殊に石炭統制撤廃の報は各炭礦に多大の反響を呼び、その動揺は蔽い難く、政府の保護政策に浴した石炭礦業に愈々転換期が到来するに至つた。

(二) 金融

預金

月初に於ては期末粉飾の反動、納税資金の引出に預金は減少を示したが、月央

以降租税の移納一服旁々地方配付税の流入、政府指定預金の預入に持直した。然し一般預金は政資の引揚好調、商況不振を映じて伸縮みの状態である(各店)。唯割増金附定期預金が預金振替乃至両建が可成り認められるものゝ比較的好調で(各店)、小口の応募者が目立ち、大衆の貯蓄意識の向上が窺われる(小樽)。かゝる折柄市銀筋では今回の定期預金レートの引上に対し利上げすればそれ丈の効果があるともており(小樽、札幌)、資金コストの上昇に対しては預金増加を以てカバーせんとする気運がみられる(前橋)。然し他方一般の金利観念薄弱であり(大分)、実質的効果は期待薄であるとする向もある(青森、松江)。農業協同組合預金は麦、馬鈴薯代金の流入により稍々寛ぎをみたが(各店)、租税移納(松江、高松、松山)閑収入の減退による生活資金の引出旺盛で(岡山)、その歩留り状況は昨年に比し著しく低調であり(岡山、松江、高松、松山)、農村経済後退の一端を示している(福岡)。

貸出

金融機関の貸出態度は引締方針を緩和し、優良企業に対する融資は寧ろ積極的で増加しており、購置資金を始めとする季節的資金も円滑に供給され(各店)、大口貸出の増加が目立っている(大阪)。然し地方銀行筋は地場融資に協力を示しているものゝ(札幌)融資先の選択に苦慮しており(松江、熊本)、余資を社債、割引興業債券の消化にむけているが(各店)、優良銘柄社債の買入難を訴えており(札幌、熊本)、本行の復金債買入所作に対しても手許潤沢の折柄売急ぎを見せていない(前橋、松本、静岡、新潟)。又信用組合、無尽会社手持国債の買入措置は中小企業資金難の折柄一般は好感を以て迎え(各店)、中小金融を相当潤すものと期待されるが(札幌)、売急ぎの気配が認められないところもある(静岡)。

月末指定預金の預入は予期していなかつただけに格別の使途に振り向けるに至らず、本行貸出の返済、割引興業債券の買入、コールの放出にあてたが(各店)、益資金需要期を控へ有効に活用せられるものと期待されている(静岡、高松)。

新設の漁業手形制度については業者としても金詰りの折柄強い関心を示しているが(札幌、青森、仙台、高松、高知、長崎、鹿児島)、共済金の裏付に限界があり、且水物金融で危険率が大きいことは争えず(札幌、青森)、殊に繋ぎ融資に

は警戒気味である(仙台、青森)。

通 貨

租税の移納、専売、食糧等の引揚進捗に政資引揚は依然好調で、市銀筋の預金不伸、貸出増加を映し本行貸出は増加したにも拘らず、上中旬は順調な還収を示し、月末指定預金の放出も本行貸出の返済に充当され、恒例の月末現金需要擡頭も響かず、一般に還収超過を示した(各店)。

(三) 商 況

購買力の低下と夏枯れを反映して商況は依然不冴で(各店)、盆景気を控えた宣伝戦も農村購買力の減退に期待はづれの感があるが(松本)、唯百貨店筋は若干向上を示した(小樽、青森、仙台、名古屋、静岡)。又市場は完全にバイヤーズ、マーケットの様相を呈し、一部にはダンピングの気配さえ窺われている(京都、大阪)。実際物価は主食類が堅調が続けた外は一般に下押し気味である(各店)。

春蘭価格については養蚕家、製糸家の間に意見の対立があり、長野、福島両県は未だ掛目決定見送りの状態にあるが、其の他の地方は最高四、六二六掛(買当り七〇〇円)(熊本)最低四、二五〇掛(買当り六四〇円)(高松)の間に妥結をみた。但し一部製糸家が遊休釜をフルに運転するため、団体契約を無視して高値(買当り七五〇乃至七二〇円)で原料蘭獲得に狂奔したところもあり(松本、前橋)早晩個別的自由取引に移行する趨勢が窺われ(松本、甲府)、中小製糸家の前途多難を思わせるものがある(前橋)。購蘭資金については市銀筋は製糸家毎に慎重な態度をとっているが、地元産業育成の見地から精算払についても円滑に供給されるものと思われる(前橋、甲府)。

政府の木炭買上停止は三十日の閣議で本決りになったが、政府の未払が多額に上り(各店)、業者の金繰りは極度に逼迫して零細生産者中には配給米の受領にも事欠くものが続出しており(仙台、福島)何等かの金融措置を要望している(仙台)。

二、八 月 中

(一) 概 況

輸出不振と購買力の減退により、産業界の一部では価格の引下げ操業の短縮等

其の打開策に苦慮しており、三国金融会談の成行と対峙地域との貿易協定の成否は、今後の貿易動向を左右するものとして一般に注目されている。

かゝる折柄、シヤウブ勧告大綱の発表は、税制の根本的合理化により、資本の蓄積に顕著な寄与をなすものとして一般に多大の好感を与え、富裕税の新設に対しても通貨不安再燃の気配は少なく、通貨に対する一般の信頼が頗る回復したことを物語っている。

然し乍ら現実には統制の撤廃或は補給金打切りに伴う自由競争基盤の拡大は企業優勝劣敗に拍車を加えており、殊に中小企業の経営難は深刻化し之が打開策として協同組織、企業合同、問屋との連繋を図る等個々の合理化の域を脱し、企業集中の動きが顕著にみられることは注目せられる。

(二) 金 融

預 金

月初盆資金の引出し増大に、市中銀行の預金は減少を示したが、資金の還流は意外に早く、経済安定感に漸次定着性を帯び、堅実な増加を示した(各店)。一方農業協同組合預金は麦、馬鈴薯代金の流入をみたが、その歩留りは昨年に比し低下している(各店)。

貸 出

盆資金等季節的資金需要を反映して、金融機関の貸出は増加し、殊に企業界の整理進捗により、優良大企業に対しては競争的態度が窺われる(大阪、名古屋、神戸)。

然し中小企業の間詰りは依然深刻で(各店)本行の無尽及市街地信組所有国債の買入、中小企業別枠融資の拡大は中小企業の間詰り緩和に寄与しており(前橋、新潟、松江)、本措置の拡大が要望されている(名古屋、松本)。

かゝる折柄融資準則の改正は商業金融を円滑にするものとして産業界は好感を以て迎え(各店)、金融機関も自主性確保に賛意を表しているものゝ、順位引上げによる金利引下げに無条件には喜べず(秋田、静岡、岡山)、貸付拒否の口実を奪われ当惑している向もあり(函館、仙台、新潟、京都)、市況不振の折柄これ等への融資が左まで増加するとは考えられず、実質的效果は薄いとみている向もある

(札幌、小樽、広島、大分)。

通 貨

月初銀行券は政資の揚超にも拘らず、盆資金等資金需要擡頭に出超を続け、中旬以降順調な還流を示したが、月中を通じてみれば出超に転じた地方が多く、一頃の還収超過傾向は鈍化した(各店)。

(三) 商 況

商況は盆を迎えて稍々活況を呈したが、内外市場の凋落を映じ滞貨は増大し、統制の撤廃も需要を刺激するに至らず、実需物価は下押し気味である(各店)。

(四) 其 の 他

(1) シヤウブ勧告大綱発表の反響

月末行われたシヤウブ勧告大綱の発表は、資本蓄積に対する配慮が行われている点を好感し、証券界は一時活況を呈したが、勤労者は期待外れの感があつた(各店)。富裕税新設に伴う無記名定期預金廃止の報は預金吸収に悪影響を与えるであろうと銀行筋は憂慮しており(名古屋、長崎)、其の実施に慎重な考慮を望んでいる(静岡)。又織物消費税の撤廃に蚕糸業界は内需の促進見込に好感を以て迎え(前橋)機業界は生糸高による搬寄せに一般の予想する如く値下りは期待できないが脱税がなくなり真面目な業者は有利になつたとみている(京都)。一方問屋筋は納税品のストック化に買控えており(前橋、新潟、金沢、甲府)機業者に対する繋ぎ金融が問題化しているが、銀行筋は滞貨増大に警戒的である(金沢、松本、京都)。

(2) 夏秋繭事情

夏秋繭の出廻りに製糸家筋は買漁りに奔走し、養蚕家は最近の生糸高を反映して強硬態度を以てのぞんでいるため繭価は高騰を示し(甲府、松本、前橋)、一部には真当り一、〇〇〇円の高値も現われるに至り(甲府)製糸業者中には糸価安定措置清算取引制の再開を要望している向もある(前橋)。一方銀行筋は糸価好調の持続に疑問を持ち融資限度を抑え、優良企業には別途考慮するという含みを持たせている(松本、前橋)。

(3) 石炭統制撤廃の影響

石炭統制撤廃の決定に需要者は炭価低落を見越して売行不振の状況で(札幌、小樽)配炭公団認証手形廃止に伴う金融も中小炭鉱に付ては可成りの困難が予想されている(札幌、下関)。一方販売業者の活動は需要者の買控えに未だ本格的ではないが(小樽)、生産者より多額の保証金と共に現金決済を要求され之が調達に苦慮しており(小樽、函館)、商手決済の励行について中央より更に徹底させる必要があると考えられる(函館)。

三、九 月 中

(一) 概 況

石炭補給金の削減、配炭公団の廃止等自由経済移行の進展に企業界は一層の合理化を要請されているが、本行の国債買入操作、市銀筋の優良企業に対する貸出の積極化と相俟つて、合理化の一段落した企業は金繰りは若干の引緩みを示して来た。

シヤウブ税制勧告は全文の発表により具体的内容が明白化したが、金融機関は預金の秘密性喪失により今後の預金吸収に勘からず影響するものとして憂慮しており、企業界は資産再評価の強制に期待はづれの態であつた。

かゝる折柄ボンドの予想外的大幅切下げに円レート切下げ必至の声も聞かれたが、その後財界は漸次平静を回復し、企業合理化の一層の推進並びに日英貿易協定の早期締結、貿易諸条件の改善こそ先決問題なりとする空気が強まりつつある。但し円価切下げ懸念による海外需要の停滞の影響は地方産業にも直ちに波及し此の点から前途を憂慮している向が見受けられる。

(二) 金 融

市中銀行の預金は引続き増加し(各店)、繭、葉煙草等農産物代金の撒布に著増を示したところもあつたが(前橋、甲府)、一般には金融機関新発足一周年の決算月に当り、可成り粉飾が行われた跡が窺われる(各店)。農業協同組合預金は麦、馬鈴薯供出代金(仙台、福島、岡山、下関)、繭代金(前橋、甲府、松江)、葉煙草賠償金(高松、松山)及び果実代金(青森、岡山)等の流入をみたが、一面生活資金

(岡山、広島、高松、松山、高知)、肥料代金(下関)、事業税納入代金(岡山)等の引出は依然旺盛で、此の爲め農業協同組合系統機関の金繰りは窮屈裡に推移した(各店)。

貸 出

農水産物集荷資金、冬山造材資金、購置資金、秋冬物仕入資金等季節的資金をはじめとする資金の需要旺盛を映じて、市中銀行の貸出は増加を示し(各店)、一部には貸出の大幅増加にインフレーションへの萌を感じている向もある(大阪)。

なお、本行の国債買入操作実施に即応し市銀筋は興業債券優良社債の買入に重点を置いているが(各店)、一部地方に於ては地方産業育成の見地より設備資金の貸出に対しても稍々積極化の気配もみられる(静岡、福岡)。

通 貨

政資の引揚順調ながら、本行の貸出増嵩を映じて還収傾向は鈍化し(各店)、農産物代金の流出に東北地方等の農産県では一様に出超を示した。

(三) 商 況

商況は秋需要見越しに衣料品等季節物の荷動きが活潑化し(各店)、売上は若干増加したが(小樽、大阪、京都、岡山)、消費者の先安見越しの選択傾向は依然強く、一般商況は不振の域を脱するに至らず(各店)、業者は供米代金に期待を寄せている(秋田、広島)。なお本年度産米の早期供出は収穫期の天候不順のため出足は遅れたが(青森、仙台)、稲作は平年作が予想されており(仙台、福島、金沢)、天候回復と共にその進捗が予想されている(新潟、秋田)。又生産者価格石当り四、六一九円の政府案就中早場米及び超過供出米奨励金の引下げに対しては単作農家は不満の意を表しており(新潟、福島)、価格地域差の設定を希望している(青森)。又シャープ勧告案に基づく減税に期待を寄せている向もある(仙台)。

鉄鋼向石炭補給金撤廃の報に鉄鋼製品の買急ぎ傾向がみられたが(神戸)、鉄鋼製品の値上りは平均三五%に止つたため需要先の合理化により吸収可能とみられており(大阪、神戸)打撃は比較的少く、需要者切符の発券範囲を拡張すれば売行にはさして心配なしとみられている(大阪)。

実際物価は補給金削減等物価高の要因をはらみつつも大勢は依然保合乃至漸落

傾向を示し(各店)、繊維品も秋需要に微騰したところもあるが(青森、新潟、金沢)、一般に買控え傾向顕著で下落を示した(各店)。

(四) シャープ税制勧告全文発表に対する反響

シャープ勧告全文発表に対する一般の反響をみるに、税制の根本的合理化、資本優遇の意図に好感を抱いているが、預金の秘密性喪失及び資産再評価の強制については慎重な考慮を望んでいる(各店)。即ち預金の秘密性否定の影響は現実には未だみられず(各店)、寧ろ之が最後というので報償定期預金(無記名式)の応募率が増加したところもあつた(仙台、静岡、神戸)。然し乍ら一部には大口預金の引出或は小口分割化等の現象が芳々みられ、市銀筋は無記名式預金廃止実施の時期及び方法に最大の関心を払つており、その方法如何によつては証券投資の馴染薄から千円札発行と相俟つて現金退蔵の増加を予想する向もある(各店)。又資産再評価の強制に付ては収益力の低い企業及び赤字企業は納税資金の調達が困難であるとし企業の実体即した幅のある運用を望んでいる(各店)。一方証券界は株主配当所得に対する優遇措置を好感しているが、証券の登録制は再評価の強制と共に株式界に悪材料となつた(各店)。又農村方面に於ては大農機具が不動産税の課税対象となれば農村機械化に影響するところが尠くないとみている(岡山)。

(五) ボンド切下げと輸出産業

ボンドの予想外的大幅切下げに産業界は戸惑いの態で、円レート切下げ必至の観測を行う向もあるが、他面磅域物価水準の上昇必至とみ、又国内の合理化によるコスト引下げ並に貿易条件改善の余地もあるとして今後の内外情勢の推移を注視しているものも少くない(各店)。之を企業別にみれば、原棉払下価格の引下げの見込まれる綿糸、綿布(各店)、原料をボンド地域より輸入している毛織物(名古屋、岐阜、仙台)等は比較的楽観的であり、車輛(神戸)は価格の点でなお競争余力はあるとみている。一方紡織機(名古屋)、人絹(大阪)は合理化によるコスト引下げの余地はあるが、陶器(名古屋、松山、長崎)、魔法瓶(大阪)、自転車(前橋)、写真機(松本)、花菱(岡山)、針(広島)等の雑品工業の打撃は大きく、円レートの切下げを要望している(各店)。

(六) 其の他

(1) 繭価事情

糸価の好況、原料繭の不足、養蚕家側の強腰、製糸家筋の円レート改訂見越しの思惑もあり、繭価は昂騰し(福岡、甲府、松本、仙台、前橋)、特に晩秋繭は初秋繭に於ける中小ブローカー、座繰方面の買進みに代り、大手筋の買漁りが顕著にみられ(甲府)、群馬県、山梨県に於ては一万掛を突破するに至つた(前橋、甲府)。之が資金の出所としては、過去に於ける生糸闇売り代金、第三者融出金もみられるが、旧繭資金の未返済分の流用によるものも少なくなく、その他金融機関に提出の繭繭予定量を遙かに下廻る小量繭に集中使用している向もあるものとみられている(松本)。又繭融資を甘くみて、明年の地盤確保の気配もみられる(福島)。かゝる折柄本行繭繭スタンブ手形の限度を最高五、一〇〇掛に押えたことに對しては市銀筋は好感を以て迎え(前橋、松本)養蚕、製糸両団体も漸次自重的態度を示しているため漸次安定化するものと見られている(前橋)。

一方機屋筋は糸価急騰に、現在の織物相場では採算がとれないため、先物契約の履行以外には原糸引取をストップし成行を注視しているが(前橋)、一部手持原糸の乏しい筋は設備の稼働率維持旁々円レート切下げの思惑を有している向もあり(甲府)、之に對し市銀筋は現行糸価による製織を危険視し機屋に對する原料糸買付資金を制限している(前橋)。

又問屋筋は織物消費税撤廃見越しに、買控えは濃厚であるが、市価上昇を見越しての売控えも見られる(甲府)。

(2) 配炭公団廃止後の石炭事情

配炭公団廃止後の出炭状況をみると、宇部炭は減退が予想されているが(下関)、北海道炭(札幌)九州炭(福岡、長崎)は引続き好調で、競つて良質炭を市場に出さんとする傾向が顕著で(札幌)売込競争は激化しており(福岡)、需要者側は炭価下落を見込んで正式契約を拒んでいるため(福岡)、炭価未定の儘送炭をしている向もある(下関、福岡)。

炭価は上級炭は稍々高値乃至殆んど保合、中級炭はトン当り約四〇〇円安、下級炭は五〇〇円乃至一、〇〇〇円安に落付き(札幌)、平均して三〇〇円乃至五〇〇

〇円程度の低落に止まるものと予想されている(福岡)。

市中銀行の石炭関係融資も本行の繋ぎ融資及び延滞認手に対する優遇措置に支援されて漸次軌道に乗りつゝあるが(札幌、小樽、福岡)、中小炭礦筋に對しては警戒消極的である(小樽、福岡、長崎)。炭代決済については一部大口需要者に對しては手形取引が行われているが、販売業者に對しては現金取引を原則としており(小樽、福岡、静岡)、販売業者は資金難に苦慮している(静岡、広島)。

昭和二十四年十月——二十五年三月

一、昭和二十四年十月中

(一) 概況

円レート切下げ問題は総司令部及び政府の切下げ否定の声明により一般は漸次不変とみる方向に固まりつゝある模様で、産業界も一段と合理化を推進せんとする気運が窺われる。然し磅切下げ後の輸出契約は停頓状態で海外に於ける買控え傾向は根強いものがある。然し日英通商協定の調印接近、フロア・プライスの撤廃及び民間貿易拡大の報は自由貿易への接近を意味するものとして一般に好感を以て迎えられ輸出契約の進捗を伝えている向もある。内外購買力の減退で滞貨は増嵩の一途を辿つてゐるが、一部には手持原材料の払底と共に荷動きが活潑化しているものもあり、今後の推移が注目されている。然し中小企業の経営難は依然深刻で、不渡手形が増加すると共に貸銀遅払現象も漸次拡大している。

(二) 金融

預金

市中銀行の預金は期末粉飾の反動(各店)で激減すると共に納税資金の引出(各店)、政府指定預金の引揚げ(各店)、公団預金の減少(札幌、小樽、青森、仙台)、商況の不振(名古屋、高知)、及び貸出増勢鈍化(大阪)を反映して漸減し、早稲米代金の流入により稍々増加した地方(秋田、新潟)を除き一般に減少を示した(各店)。尚小口預金は依然底固い増加を示しているが(小樽、松本、大阪、京都、高松、大分)、大口預金の吸収難(岡山)及び一部には現金退蔵傾向が見られるとこ